

【36】 歴史に登場する最初の河川

日本の創成期の頃の話となると、どうしても古事記や日本書紀に頼るしかありませんが、以下の話しは両書ともほぼ同じ内容なので日本書紀に従って紹介します。

わが国の最初の河川は高天原（タカマガハラ）にあった“天安川”（アマノヤスノカワ）です。素戔鳴尊（スサノオノミコト）が高天原で乱暴狼藉を働いたため、姉の天照大神（アマテラスオオミカミ）が岩屋に隠れられたとき、神々が集まって対策会議を開いたのが、この天安川のほitoriです。わが国で最初の河川といっても高天原のことですから実在感がありません。何処かにモデルとなった河川はあると思うのですが。

高天原から追放された素戔鳴尊が、地上に降りたのが出雲の国の“簸の川”（ヒノカワ、古事記では“肥の川”）のほitoriですが、これは現在の島根県の一級河川斐伊川のことです。現実に存在する河川で、歴史書に登場する最初の河川が斐伊川なのです。

古事記（712年）や日本書紀（720年）が編纂された8世紀初頭に文化の中心であった奈良や大阪の淀川や大和川でないところが面白く、日本の創成期における出雲の役割を窺わせる話しとなっています。